

① 東京大学 山口教授講演録 「安全目標」に求められること

安全目標に掛かる過去の原子力安全委員会の検討経緯等を振り返り、気になる点等が指摘された。最後に、本日の座談会の議論のポイントとして、「安全目標と性能目標、性能目標の役割と意味」「原子力利用に安全目標は役立つか必要か」の2つであると示された。

講演においては、次に示す意見が示された。

- ・原子力安全委員会の安全目標案（定性的目標案と定量的目標案）が説明され、安全確保活動の深さや広さを共通の指標で示すことが可能となるという“安全目標を確率で表す”ことの意味が示された。
- ・本年の台風19号の豪雨災害での浸水に対して、津波のための堤防で雨水がせきとめられ住宅が浸水する事となった側面があるとの指摘があった。これは、対策のバランスが大事で、パッチワーク的な対策は良くなく、総合的な視点での検討が重要であることを示唆している。
- ・総合的な視点での検討の例として、米国での1978年の格納容器の設計選択を Value Impact 分析による有効性評価にて行った事例が紹介された。米国では、1970年代に既にリスク評価、コストなどを総合的に考慮することが行われていた。
- ・原子力安全委員会の性能目標案の内容が説明された。2年前に規制庁は各国の性能目標との比較を実施はしているが、公衆の健康影響を見るという観点で性能目標がどうあるべきか、日本はCDFとCFFを指標としておりLERFに関する基準がない、等の議論をきちんと実施できたのかは疑問であったと問題が提起された。
- ・米国ACRSから1980年に提案された安全目標が持つべき要件が説明された。上位の安全目標の下で、下層の目標を設定することが重要である。
- ・米国ACRSの安全目標、我が国の安全目標の議論においても対象とできていない項目として、社会的影響に関する目標がある。1F事故を経験した我が国においては、社会的影響に関する目標を検討対象とすべきかどうかについても議論を行う必要があるのではないかと考える。
- ・座談会のポイントは、「安全目標と性能目標、性能目標の役割と意味」「原子力利用に安全目標は役立つか必要か」であると考えられる。この後の講演で、過去の安全目標の検討に携わった経験に基づく、日米両面からの御意見もいただいた上で、議論を進めたい。

以上